

第70回 発電用設備規格委員会 火力専門委員会 議事録（案）

1. 日 時：2014年11月18日（火）13時30分～15時50分

2. 場 所：日本機械学会 第3,4,5会議室

3. 出席者：（委員21名中、出席者17名（うち代理1名）、欠席者4名）

小溝（阪大）、藤田（MHPS）、飯田（東電）、三好（川崎重工）、松田（HSB
ジャパン）、佐藤（発電技検）、長谷川（新日鐵住金）、大橋（IHI）、
天野（早大）、岡（富士電機）、鈴木（電源開発）、屋口（電中研）、
桑野（関電）、五代儀（火原協）、古屋（大口自家懇）、長尾（中部電力）

代理者：井手（木村：NIMS）

欠席者：野井：（ロイド）、野田（経産省）、三原（富山大）、沖（電気協会）

オブザーバ：島田（東芝）、茂田井（東電）

事務局： 原

4. 配付資料

70-1 第69回火力専門委員会議事録(案)

70-2 専門委員会・分科会委員案

70-3-1 第70回規格委員会議事録（案）

70-3-2 第71回臨時規格委員会議事録（案）

70-4-1 材料分科会報告

70-4-2 構造分科会報告

70-4-3 溶接分科会報告

70-4-4 配管減肉分科会報告

70-5-1 材料分科会審議履歴表

70-5-2 構造分科会審議履歴表

70-5-3 溶接分科会審議履歴表

70-5-4 配管減肉分科会審議履歴表

70-6-1 高Cr鋼のクリープ強度見直しに係る対応 提案（素案）

70-6-2 高Cr鋼のクリープ強度見直しに係る対応 参考資料

70-7 発電設備技術検査協会委託調査 IIPに関する参考情報

5. 議事

(1) 前回議事録確認 [70-1]

前回議事録（案）について確認を行ない、議事録案は承認された。

(2) 専門委員会委員、役員の承認

1) 専門委員会委員推薦の承認 [70-2]

火力専門委員会の以下の新任委員候補が報告された。採決を行った結果、出席

委員全員の賛成により、次回規格委員会に推薦することが承認された。また、以下の退任委員が報告された。

- ・火力専門委員会：(退任) 松本 朗弘 委員、高川 浩仁 委員
(新任候補) 島田 秀顕 氏(東芝)、

2) 分科会委員の承認

各分科会の以下の新任候補の推薦および委員の再任意向および役員の互選による推薦が報告された。採決を行った結果、出席委員全員の賛成で承認された。

- ・材料分科会： (新任候補) なし
(退任) なし
(再任) なし
- ・構造分科会： (新任候補) なし
(退任) なし
(再任) 小高 秀一 委員
- ・溶接分科会： (新任候補) 飯島 亨氏 ((一社)日本溶接協会 事業部)
(退任) 鈴木 雄二 委員
(再任) 樺田 訓名理 委員(副主査)
- ・配管減肉分科会： (新任候補) なし
(退任) なし
(再任) なし

(3-1) 発電用設備規格委員会報告

1) 第70回規格委員会報告

[70-3-1]

第70回規格委員会の審議内容のうち、火力に関連する内容が報告された。特記事項は以下のとおり。

- ・火力専門委員会委員・役員の承認
- ・火力専門委員会報告
- ・火力専門委員会関連の審議事項はなし

2) 第71回臨時規格委員会報告

[70-3-2]

第71回臨時規格委員会の議題である、原子力の設計・建設規格の誤記問題に関連して、誤記発生の経緯、誤記の概要、今後の対応策案などについて報告した。原子力規制委員会対応に関して火力専門委員会は関係ないが、今後検討を進める、規格原案のチェック&レビューシステムの改善、正誤表等の対ユーザー情報発信システムの改善、規格審議プロセスの改善については、規格委員会全体の課題として検討を進めることとなる。

(質疑)・今回の誤記問題に関し、火力専門委員会としての対応はあるか。→
原子力規制委員会対応が優先されるので、当面は原子力専門委員会

の対応となるが、チェック&レビューの見直しなどの検討が進めば、火力専門委員会で対策案の審議を行うことになる。

- ・ 71 回臨時規格委員会の議事録の最後のところのなお書きは、どうして書かれているのか。 → マンパワー、費用等を十分に考慮すべきとの意見が複数あったことから、それを反映したもの。

(3-2) 分科会報告

1) 材料分科会報告

[70-4-1,70-5-1]

井手材料分科会幹事が第 73 回材料分科会（H26.10.29）の審議事項および決定事項について報告を行った。主な内容は以下のとおり。

- ・ 高 Cr 鋼のクリープ強度見直しに係る対応
「発電用火力設備における高クロム鋼に対する寿命評価式の一部改正について（NISA-234a-07-4）」が本年 5 月 30 日に廃止され、新たに「発電用火力設備における高クロム鋼に対する寿命評価式について（20140526 商局第 1 号）」が施行された。さらに、本年 9 月 16 日付で一部改正が行われ、高クロム鋼の寿命評価式が見直されている。これらを踏まえ、高 Cr 鋼に関する事例規格(TA-CC-001)における対応について審議を行った。審議の結果、事例規格を改訂する方向で作業を進めることを決定した。
- ・ レビュー票審議
審議履歴表に基づき、レビュー票の審議状況を報告した。
- ・ 正誤表
今までのレビューの中で見つけた誤記等を正誤表として発行するため、各委員が担当箇所の正誤表を作成することとした。

2) 構造分科会報告

[70-4-2,70-5-2]

飯田構造分科会主査が第 82 回構造分科会（H26.11.5）の審議事項および決定事項について報告を行った。主な内容は以下のとおり。

- ・ 正誤表
委員 2 名から、担当範囲に係る正誤表について説明があり、審議を行った。正誤表については、原則各委員担当分を次回分科会までに準備し、確認することとした。
- ・ Part UNF の取り込みについて
正誤表の作成、レビュー票審議を優先するため、当面保留とし、改訂作業に目処が付いた時点で、ASME 等の引用箇所を整理して検討する。
- ・ レビュー票審議
審議履歴表に基づき、レビュー票の審議状況を報告した。
あと 1～2 回で、レビュー票審査完了を目標に作業を進めることを確認した。

3) 溶接分科会報告

[70-4-3,70-5-3]

茂田井溶接分科会幹事が第62回溶接分科会（H26.10.30）の審議事項および決定事項について報告を行った。主な内容は以下のとおり。

- ・ RT と UT の性能比較について

標記性能比較について、分科会審議における意見を紹介するとともに、次の審議結果を報告。

＜審議結果＞ UTを採用することとし、根拠の記載内容は、他の章の規定も含めて確認したうえで検討し、次回の分科会にて確認する。

- ・ 正誤表について

基本規定 2012 年版のエンドースを見据え、今までのレビューの中で見つけた誤記等を、正誤表として発行する。各委員に、担当している部分の正誤表の作成をお願いした。次回の分科会時に概略まとめる予定。

- ・ レビュー票審議

審議履歴表に基づき、レビュー票の審議状況を報告した。

（コメント） 審議履歴表の前々回のアーティクル 1 のところに、火技解釈の改定の最新動向を確認するとあるが、今回の火技解釈改正に追加された ISO や ASNT の年版は既に古くなっている可能性があるため、この点を考慮して、レビューを進めて下さい。

→ 今回の改訂は ASME 2011 年版の取り入れと最新の火技解釈の反映を基本スタンスとしているが、ISO や ASNT の最新版を確認した上で、適切な年版を分科会にて検討していく。

4) 配管減肉分科会報告

[70-4-4,70-5-4]

井手配管減肉分科会幹事が第8回配管減肉分科会（H26.11.7）の審議事項および決定事項について報告を行った。主な内容は以下のとおり。

- ・ 配管減肉管理に関する規格（JSME S CA1-2005）の改訂について

12月19日（金）までに規格本文改訂案及び技術的知見改訂案のレビュー実施し、意見集約表にコメント記入し主査まで返信。次回分科会（1月21日開催予定）にて、火力専門委員会への上申を決議する予定。

- ・ 火力設備配管減肉管理技術規格（2009 年版）の改訂案

クロスチェックによる追加の修正箇所を確認・審議を行った。当日の修正箇所は主査にて修正し、修正後の原稿を再度、三役にてチェックを行う。

- ・ 放射線透過式配管肉厚測定装置について

○ 放射線透過式配管肉厚測定装置について、規格に取り込む方針で作業を進めることが全員一致で承認された。

＜条件＞ 規格への取り込みにあたっては、適用条件を明確化して規格に記載する。

○ 放射線透過式配管肉厚測定装置に関する規格案を次回までに作成する。

○ 分科会新規提案に対する審議方針に従い、新規提案参考資料について次回分科会までに確認を行う。

(3-3) 発電設備技術検査協会の調査委員会への委員派遣について [70-7]

- ・ 前回の委員会にて三役一任となっていた委員派遣について、藤田副委員長を推薦したことが報告された。
- ・ 藤田副委員長より、資料 70-7 に基づき、IIP 調査の内容、進捗状況などについて紹介があった。

(4) 審議

1) 高Cr鋼のクリープ強度見直しに係る対応(ご意見伺い) [70-6-1,2]

井手材料分科会幹事が、資料 70-6-1,2 に基づき、高Cr鋼のクリープ強度見直しに係る対応について説明し、審議を行った。説明の概要は以下のとおり。

- ・ 今回は、事前のご意見伺いであり、書面投票の承認などは次回以降を予定している。
- ・ 材料専門委員会に依頼した検討の結果を受け、事例規格(TA-CC-001)を改訂する。改訂案は資料 70-6-1 のとおり。基本規定との関係については現在検討中。
- ・ 許容応力の見直しの反映については、追補版の発行を含めて詳細規定への反映方法を検討中。

(ご意見等)

- ・ 基本規定に記載の「法令等」が改定されたにもかかわらず、事例規格を改訂する理由は。 → 改定の対象は火技材であり、JSME 規格では許容応力が異なるJ火材(火技解釈参照材)のため、規格上は別材料であるので、改訂が必要と判断している。
- ・ 事例規格の1.適用における鋼種の並び順は、表1の鋼種の並び順に合わせた方がよい。
- ・ 許容応力の見直しの反映に関して追補版を発行するならば、火技解釈に基本規定-2012年版の取り込みが検討されているところなので、経産省またはJESCに事前に情報提供しておいた方がよい。 → 近々JESCと顔合わせの機会があるので、その場で情報提供する予定。
- ・ 事例規格の改訂のスケジュールはどうか。次回の委員会にて、書面投票実施の承認を決議する予定か。 → 基本規定、追補版発行の関係もあるため、検討中の状況。

6. 次回開催予定

日 時：2015年2月25日(水) 13:30~17:00

場 所：日本機械学会 第3・4・5会議室